（スライド1）

- オリンパスの武田でございます。

- ご多忙の中、オリンパス株式会社「2021年3月期 第1四半期決算電話会議」にご参加いただき誠に有難うございます。

- それでは早速、決算概況についてご説明申し上げます。

免責事項

- 本資料のうち、業績見通し等は、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいたものであり、判断や仮定に内在する不確定な要素および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等が目標と大きく異なる結果となる可能性があります。
- また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。従いまして、本情報及び資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行って下さいますようお願い致します。
- 本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

ハイライト

第1四半期連結実績

☑ 売上高：　新型コロナウイルスの影響を受け、全事業で大幅な減収
5月から6月にかけて、前年同月比の減収率が縮小

☑ 営業利益：　費用支出を抑え、厳しい事業環境においても黒字を確保
主力の内視鏡事業が牽引

通期業績見通し

☑ 連結業績予想は引き続き「未定」
新型コロナウイルスの世界的な感染拡大による先行き不透明な状況が継続しており、
業績予想の合理的な算定が困難

（スライド3）

- スライド3ページをご覧ください。
- 2021年3月期第1四半期の連結業績における主なポイントです。
- 新型コロナウイルスの影響を受け、減収減益です。
- 売上高は、全事業で大幅な減収となりましたが、5月から6月にかけて、前年同月比の減収率が縮小しました。
- 営業利益は厳しい事業環境においても、黒字を確保しました。
- 主力の内視鏡事業が牽引し、費用支出を抑えたことも奏功しました。
- なお、通期業績見通しの公表には至っておりませんが、社内の計画を上回る実績となりました。
- ただし、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大による先行き不透明な状況が継続しており、通期業績見通しは引き続き未定とさせていただきます。

OLYMPUS

01 2021年3月期 第1四半期 連結業績および事業概況

（スライド4）

- それでは、第1四半期の連結業績および事業概況について、ご説明申し上げます。

2021年3月期 第1四半期実績 ①連結業績概況

1 売上高： 新型コロナウイルスの影響を受け、全事業で減収
2 営業利益： 厳しい事業環境においても内視鏡事業が牽引し、黒字を確保

		第1四半期実績（4-6月）			参考数値
（単位：億円）	2020年3月期	2021年3月期	前年同期比	為替影響調整後	為替+Covid-19 影響調整後
売上高	1,819	1 1,424	▲22%	▲19%	▲340億円
売上総利益 （売上総利益率）	1,167 (64.2%)	873 (61.3%)	▲25%	▲22%	-
販売費および一般管理費 （販売費および一般管理費率）	1,011 (55.6%)	846 (59.4%)	▲16%	▲14%	-
その他の収益および費用等	▲9	▲14	-	-	-
営業利益 （営業利益率）	147 (8.1%)	2 12 (0.8%)	▲92%	▲80%	▲110億円
税引前利益 （税引前利益率）	136 (7.5%)	2 (0.1%)	▲98%		
親会社の所有者に帰属する当期利益 （親会社の所有者に帰属する当期利益率）	86 (4.7%)	▲27 (-)	▲114億円		
EPS	6円	▲2円			
円／USドル	110円	108円			
円／Euro	123円	118円			
円／CNY	16円	15円			

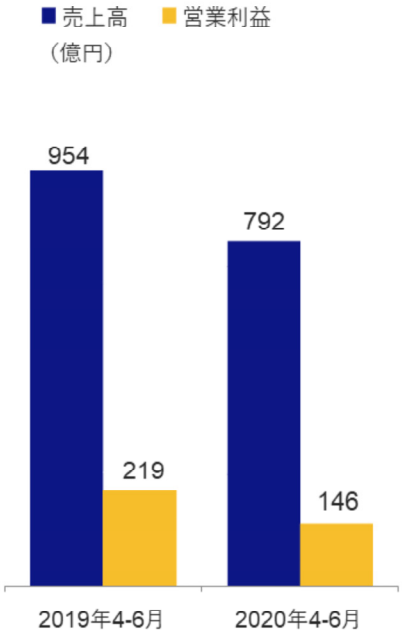
2021年3月期配当
未定

Page 5 2021年3月期第1四半期 連結決算概況 OLYMPUS

（スライド5）

- スライド5ページをご覧ください。
- 連結売上高は、1,424億円です。新型コロナウイルスの影響を受け、全事業で減収となりました。
- 為替を除く実質ベースで19%の減少でした。
- 売上総利益は873億円でした。原価率が上昇しました。
- 新型コロナウイルスの影響により、工場の操業度が低下したことが主な要因です。
- 販管費は、846億円でした。新型コロナウイルスの影響で通常の活動ができなかったこと等により、旅費交通費、販売促進費等が減少しましたが、売上高の減少により、販管費率は上昇しました。
- 営業利益は12億円でした。主力の内視鏡事業が牽引し、黒字を確保しました。
- 新型コロナウイルスの影響は、売上高には約340億円、営業利益には約110億円程度あったと考えています。
- いずれの事業も4月5月を中心に大きく影響を受けました。中でもシングルユースデバイスを中心とした治療機器事業は症例数に応じて売上が左右されやすいため、減収幅が大きくなりました。
- なお、この影響額は、新型コロナウイルスの影響がなければ、少なくとも前期実績は達成できていたという前提に立ち、為替変動およびその他損益を除いた前年同期と比較して算出しました。
- 最終損益は、27億円の当期損失を計上しました。
- 四半期特有の会計処理の影響もあり、当四半期は法人所得税費用が大きくなっております。こちらは年間を通じて補正される見込みです。

2021年3月期 第1四半期実績 ②内視鏡事業



☑ **売上高** 新型コロナウイルスの影響があり減収するも、中国はプラス成長（為替影響調整後+3%）

☑ **営業利益** 厳しい事業環境の中でも、為替影響を除けば営業利益率約20%を実現

第1四半期実績（4-6月）

単位: 億円	FY2020	FY2021	前年同期比	為替影響調整後
売上高	954	792	▲17%	▲14%
営業利益	219	146	▲33%	▲27%
その他の損益*	2	▲4	-	-
営業利益率	23.0%	18.5%		19.4%

*決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値

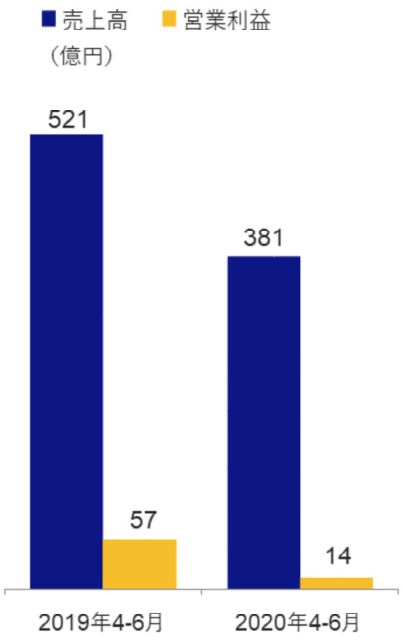
Page 6 2021年3月期第1四半期 連結決算概況 OLYMPUS

（スライド6）

- スライド6ページをご覧ください。
- 各セグメントの概況について、ご説明いたします。

- まず内視鏡事業です。
- 売上高は792億円となりました。為替を除く実質ベースで14%の減少でした。
- 新型コロナウイルスの感染拡大を受け、オンラインでの営業活動やトレーニング、セミナーの実施等行いましたが、医療機関など顧客先への訪問の制限や商談の延期・中止など、販促活動に制約が生じたことや、症例数の減少が影響しました。
- 全地域厳しい状況ではありますが、中国は為替を除く実質ベースで3%の増収となりました。
- また、欧州は政府主導のがん予防プロジェクトが進行するロシアが引き続き好調に推移していることから、為替を除く実質ベースで3%減収と、他地域と比較し減収幅は小幅にとどまりました。
- 営業利益は、販管費のコントロールなどにより146億円、為替の影響を除くと営業利益率は19.4%を実現しました。

2021年3月期 第1四半期実績 ③治療機器事業



☑ **売上高** 緊急度に応じて症例数が減少し、全地域で減収

☑ **営業損益** 減収となるも、費用を圧縮し、黒字を確保

第1四半期実績（4-6月）

単位: 億円	FY2020	FY2021	前年同期比	為替影響調整後
売上高	521	381	▲27%	▲24%
営業利益	57	14	▲74%	▲69%
その他の損益*	0	▲3	-	-
営業利益率	10.9%	3.8%		4.5%

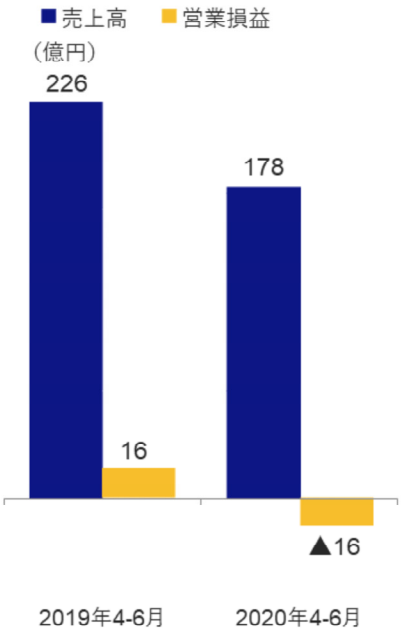
*決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値

Page 7 2021年3月期第1四半期 連結決算概況 OLYMPUS

（スライド7）

- スライド7ページをご覧ください。
- 治療機器事業です。
- 売上高は381億円となりました。為替を除く実質ベースで24%の減少でした。
- 新型コロナウイルスの感染拡大を受け、施設において感染予防を強化するためオペレーションの変更を行っていること、および患者さんが病院の受診を控える動き等により症例数が減少したことや、販促活動に制約が生じたことが影響しました。
- 地域別に業績には差が見られ、米国は為替を除く実質ベースで36%減と減収幅が大きかった一方、日本は14%減、中国は11%減と減収幅が小さい傾向となりました。
- 営業利益は、費用の削減などにより14億円の黒字を確保し、為替の影響を除くと、営業利益率は4.5％となりました。

2021年3月期 第1四半期実績 ④科学事業



☑ **売上高** 新型コロナウイルスの影響を受け減収となるも、中国は増収を達成

☑ **営業損益** 減収を主要因として、営業損失を計上

第1四半期実績（4-6月）

単位: 億円	FY2020	FY2021	前年同期比	為替影響調整後
売上高	226	178	▲21%	▲18%
営業損益	16	▲16	▲32億円	▲30億円
その他の損益*	▲2	▲3	-	-
営業利益率	7.3%	-		

決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値

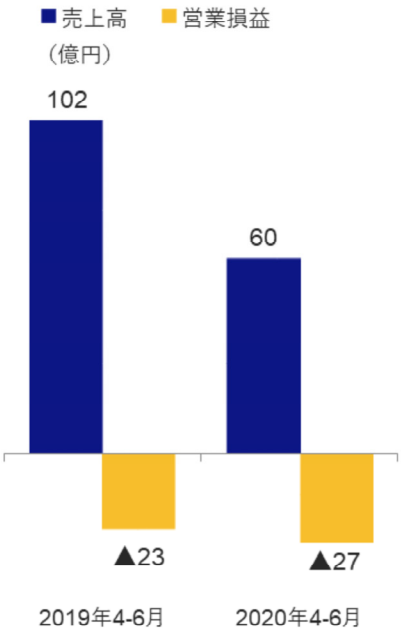
Page 8 2021年3月期第1四半期 連結決算概況 OLYMPUS

（スライド8）

- スライド8ページをご覧ください。
- 続いて科学事業です。

- 売上高は178億円、為替を除く実質ベースでは18%減少です。
- 新型コロナウイルスの影響を受け、全体では減収となりましたが、中国では工業用顕微鏡や非破壊検査機器等を中心とした産業製品が売り上げを伸ばし増収を達成しました。
- 減収を主要因として、16億円の営業損失を計上しました。

2021年3月期 第1四半期実績 ⑤映像事業



☑ **売上高** 新型コロナウイルスの影響を大きく受けて減収

☑ **営業損益** 減収を主要因として、損失が拡大

第1四半期実績（4-6月）

単位: 億円	FY2020	FY2021	前年同期比	為替影響調整後
売上高	102	60	▲41%	▲39%
ミラーレス	77	48	▲38%	▲36%
コンパクト	12	6	▲52%	▲51%
その他	13	7	▲46%	▲44%
営業損益	▲23	▲27	▲4億円	▲5億円
その他の損益*	▲5	▲2	-	-
営業利益率	-	-		-

*決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値

Page 9 2021年3月期第1四半期 連結決算概況 OLYMPUS

（スライド9）

- スライド9ページをご覧ください。
- 続いて映像事業です。
- 売上高は、60億円、為替の影響を除くと前年同期比39%減少しました。
- 営業損失は、27億円となりました。
- 新型コロナウイルスの影響を大きく受けて、減収となり、損失が拡大しました。

財政状態計算書

- ☑ 安定的な事業運営のために現預金を確保
- ☑ 長期借入金の調達やコマーシャル・ペーパーの発行により、社債および借入金が増加

（単位：億円）	2020年3月末	2020年6月末	増減額
流動資産	5,067	6,044	+977
棚卸資産	1,676	1,833	+157
非流動資産	5,090	4,947	▲143
有形固定資産	2,021	2,013	▲8
無形資産・その他	2,085	1,960	▲125
のれん	983	974	▲10
資産 合計	10,157	10,991	+834

	2020年3月末	2020年6月末	増減額
流動負債	3,338	3,444	+106
社債及び借入金	810	1,119	+309
非流動負債	3,099	3,927	+828
社債及び借入金	1,999	2,840	+841
資本	3,720	3,620	▲100
自己資本比率	36.5%	32.8%	▲3.7pt
負債及び資本合計	10,157	10,991	+834

有利子負債：3,959（2020年3月末比+1,150）

（スライド10）

- 2020年6月末の財政状態です。
- 新型コロナウイルスの収束が見えない中、安定的な事業運営を行うため、追加的な資金調達を行い、手元流動性を高めました。結果、現預金、社債及び借入金が増加しました。
- また、棚卸資産が157億円増加しました。これは主に新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、想定通りに売上が伸びず 在庫が増加したことによるものです。
- 負債の増加により、自己資本比率は前期末比で3.7ポイント減少し、32.8％となりました 。

連結キャッシュフロー計算書

- ☑ FCF：営業利益の減少により、39億円のマイナス
- ☑ 財務CF：長期借入による調達により、1,118億円のプラス

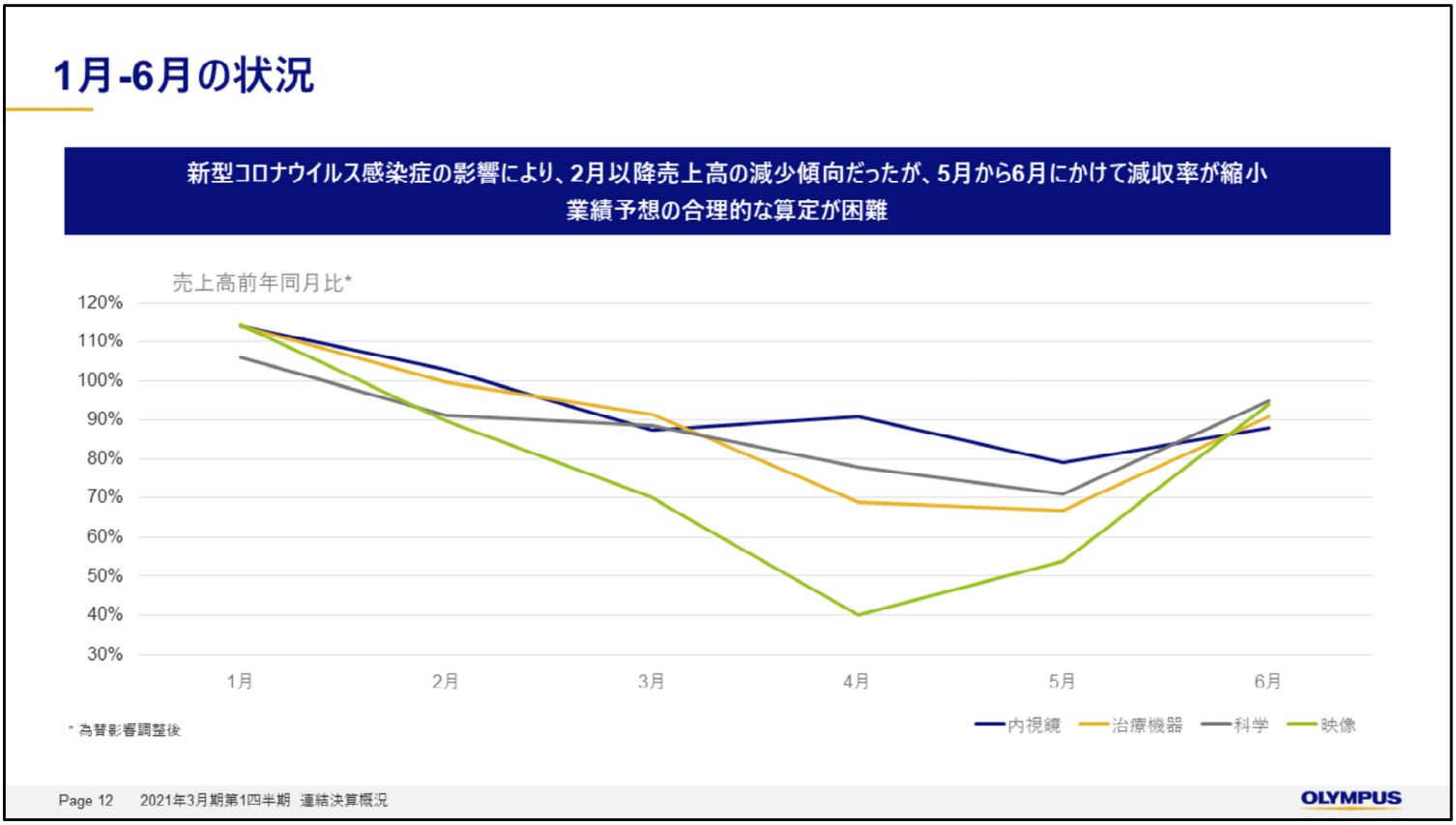
第1四半期実績（4-6月）

（単位：億円）	2020年3月期	2021年3月期	増減
売上高	1,819	1,424	▲395
営業利益	147	12	▲135
営業利益率	8.1%	0.8%	▲7.3pt
営業キャッシュフロー	284	84	▲200
投資キャッシュフロー	▲155	▲123	+32
フリーキャッシュフロー	129	▲39	▲168
財務キャッシュフロー	▲113	1,118	+1,231
現金及び現金同等物期末残高	1,137	2,707	+1,569

（スライド11）

- スライド11ページをご覧ください。
- キャッシュフローの状況です。

- 営業キャッシュフローは、新型コロナウイルスの影響により営業利益が減少したことを背景に前年同期比200億円減少の84億円となりました。
- 投資キャッシュフローは、医療分野のデモ・ローナー品等の有形固定資産取得が減少したことにより、前年同期比では32億円減少しました。
- 以上により、フリーキャッシュフローは168億円減少し、39億円のマイナスとなりました。
- 財務キャッシュフローは、コマーシャル・ペーパーや長期借入による調達により、1,231億円増加、1,118億円となりました。
- 結果、6月末の現金及び現金同等物残は2,707億円となりました。



（スライド12）

- スライド12ページをご覧ください。
- 月別の売上高の状況についてご説明申し上げます。
- このグラフは、前年売上高を100%として本年1-6月の事業別売上高推移を示すものです。新型コロナウイルスの影響で5月までは減収傾向にありましたが、5月から6月にかけて全事業において減収率が縮小しています。
- なお、7月の状況ですが、速報ベースの参考値として、内視鏡事業は6月と比較し若干回復傾向、治療機器事業は前年並みの水準まで回復しています。ただし、科学事業と映像事業は減収幅が再び拡大しています。
- 世界各地で再び感染拡大の兆候が見られ、地域によっても状況は異なります。
- 依然として先行きは不透明な状況が続いているため、通期業績見通しは引き続き未定とさせていただきます。

（スライド13）

- スライド13ページをご覧ください。
- 新型コロナウイルスを受けて、医療従事者や顧客との関わり方が変化しており、ニューノーマルに向けた取り組みを進めています。具体例を2つ挙げます。
- まず、MedPresenceの活用です。2017年に買収したImage Stream Medicalの技術を活用し、新たに開発されたサービスです。
- MedPresenceは、医療分野で求められる高いITセキュリティを備えた遠隔医療支援システムです。
- 様々な診療科の医療従事者やトレーナー、わたくしたちのような医療機器メーカーの担当者を、リアルタイムに接続することを可能とします。
- 例えば、外科手術において、オペレーションを行っている手術室と遠隔地にいる専門医や医療機器メーカーと、画像などの情報も含めたコミュニケーションを可能にし、医療従事者同士のディスカッションや遠隔からの手術のサポートを行うことができます。
- 新型コロナウイルスが拡大する現状においては、MedPresenceを活用することにより、医療従事者の医療現場への立ち会いを最小限にすることも可能です。感染リスク対策という点からも、医療従事者の活動をサポートしております。より多くの医療機関でこれらメリットを享受いただけるよう、現在、米国および欧州では、MedPresenceの（90日間）無償使用プログラムを展開しております。
- 今後、医療現場における遠隔でのコラボレーションのニーズは高まっていくと考えており、ソリューションの強化を図ってまいります。
- 次に、オンラインのトレーニングやデモンストレーションの実施、そしてセミナーの開催です。
- 新型コロナウイルスの感染が拡大する中、お客様と直接対面して行う活動に制限が生じています。
- そこで、オンラインでのデモンストレーションやセミナー等を多く実施しています。新型コロナウイルス感染拡大と上市のタイミングが重なったEVIS X1についても対面でのイベントなども中止となる中、オンラインでのコミュニケーションにおいて活用しやすいデモ動画の充実や、オリンパスが主催するWEBセミナー形式のドクターイベントなども新たに企画しております。
- 今後もデジタル化を軸に、新たなアプローチ方法を追求し、ニューノーマルに向けた取り組みを加速してまいります。

（スライド14）

- スライド14ページをご覧ください。
- 2021年3月期は、企業改革の取り組みを着実に進めてまいります。これまでの主な進捗は2点です。
- まず、6月24日に企業再生に実績のある日本産業パートナーズ株式会社に映像事業を譲渡することに関する意向確認書を締結いたしました。OM-D や、PEN、ZUIKOなどをはじめとしたブランドを継承する事業体として、引き続き、お客様にとってより良い製品、サービスを提供してまいります。
- 次に、次世代消化器内視鏡「EVIS X1」の発売です。4月23日から欧州・アジア一部地域で、7月3日から日本で発売を開始しました。
- グローバル統一プラットフォームを軸に、充実した製品ポートフォリオを展開し、EVIS X1の新しい機能とともに臨床的価値や、内視鏡医療のゴールデンスタンダードを創造していきます。

持続的な成長を見据え、必要な投資を実施

約3,500～4,000億円の流動性を確保*

- 約2,700億円の現預金を保有**
- 2020年7月に社債（5年、10年）にて長期安定資金500億円を追加調達
- 上記の他、コミットメントライン（約1,000億円）を保有

ビジネスデベロップメントの活動を強化

- キャッシュの安定的な確保を継続的に行い、必要なM＆Aも検討していく

*2020年7月末時点　**2020年6月末時点

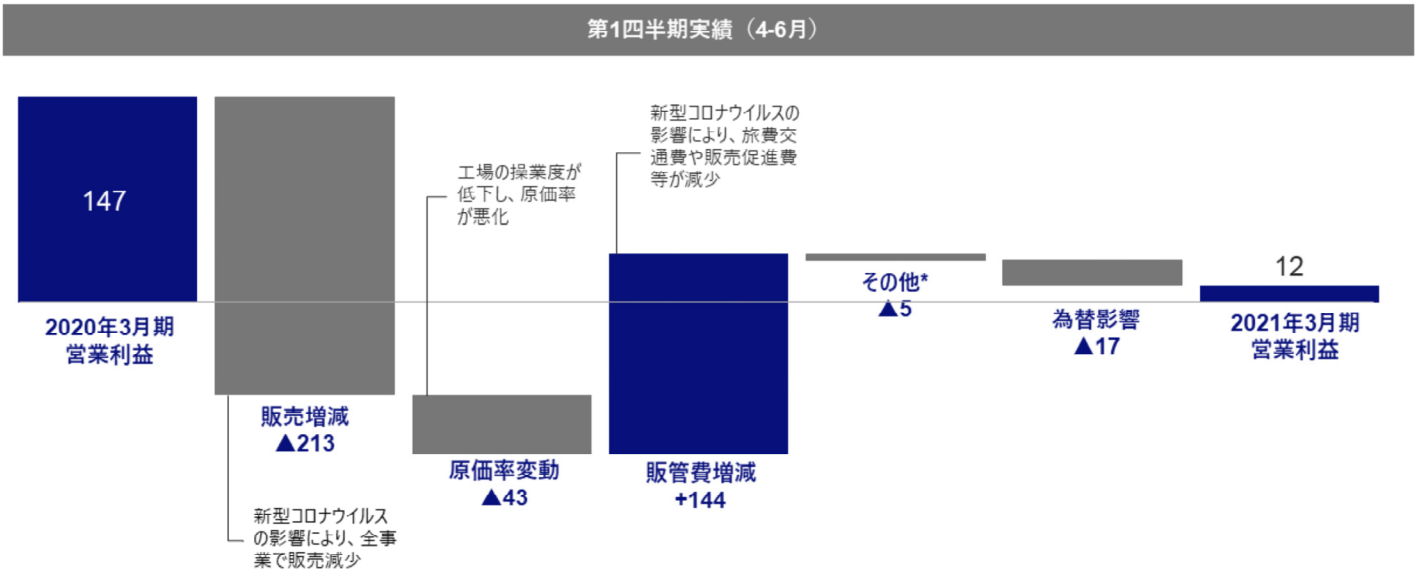
（スライド15）

- スライド15ページをご覧ください。
- 先のスライド（スライド10）で手元流動性を高めたことをご説明しました。7月には社債500億円を発行しました。
- 1,000億円規模のコミットメントラインも確保しております。
- 新型コロナウイルスの影響が続く中でも、通常事業運営に加え、持続的な成長を見据えた投資も可能なよう備えをしております。
- これまで当社はビジネスデベロップメント機能を継続的に強化し、事業開発活動を加速化しております。
- 昨年11月発表した経営戦略において定めた重点領域を中心にM＆Aなどを通して、外部機会を取り込み、早期診断、低侵襲治療に対する当社のコアコンピタンスをより強固なものとし、企業価値の最大化を目指します。
- 私からの説明は以上です。

OLYMPUS

02 Appendix

参考資料：2021年3月期　第1四半期実績　①連結営業利益増減要因



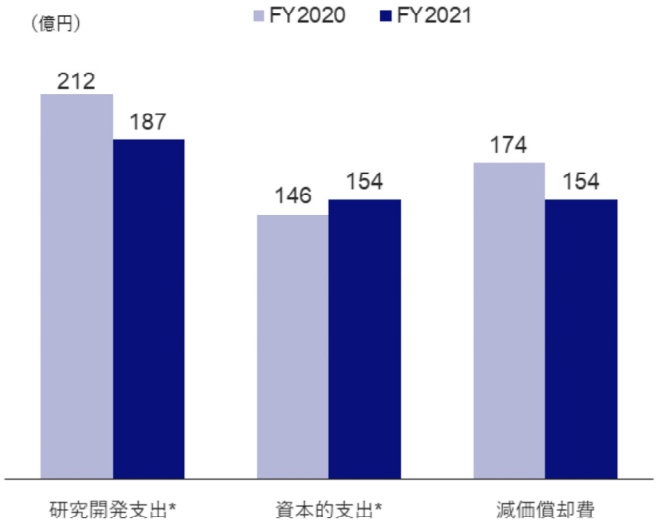
（単位：億円）*その他には、決算短信に記載の「持分法による投資損益」、「その他収益」、「その他費用」が含まれています。

参考資料：2021年3月期　第1四半期実績 セグメント別概況

単位：億円		第1四半期実績（4-6月） 2020年3月期	2021年3月期	前年同期比	為替影響調整後	参考数値 為替+Covid-19影響調整後
内視鏡	売上高	954	792	▲17%	▲14%	-
	営業利益	219	146	▲33%	▲27%	-
治療機器	売上高	521	381	▲27%	▲24%	-
	営業利益	57	14	▲74%	▲69%	-
科学	売上高	226	178	▲21%	▲18%	-
	営業損益	16	▲16	▲32億円	▲30億円	-
映像	売上高	102	60	▲41%	▲39%	-
	営業損益	▲23	▲27	▲4億円	▲5億円	-
その他	売上高	16	13	▲18%	▲18%	-
	営業損益	▲6	▲4	+2億円	+2億円	-
全社・消去	営業損益	▲115	▲101	+14億円	+13億円	-
連結合計	売上高	1,819	1,424	▲22%	▲19%	▲340億円
	営業利益	147	12	▲92%	▲80%	▲110億円

参考資料：投資等

第1四半期実績（4-6月）



（単位：億円）	FY2020	FY2021
研究開発支出* (a)	212	187
開発費資産化 (b)	33	34
損益計算書上における研究開発費 (a-b)	179	153

（単位：億円）	FY2020	FY2021
償却費	17	20
	2020年3月末	2020年6月末
開発資産残高	477	492

* 研究開発支出および資本的支出には、開発費資産化(b)の数値が含まれています